

場所・面積 兵庫県宝塚市、0.67 ha

管理目的 米の生産 環境学習の場提供 生物多様性の保全

サイト概要 宝塚市北部玉瀬（西谷地区内）にあり、地域は「生物多様性保全上重要な里地里山」に指定されている。県有環境林に囲まれた谷津田であり小さなため池と山のしみだし水により涵養されている。

周囲の圃場が「圃場整備」される中、環境保護を優先し参加を拒否。現在50種を超える貴重種（動植物）が確認されており、生物多様性の宝庫となっている。近隣には兵庫県天然記念物「丸山湿原群」もあり補完的役割も大きい。

特にため池につながるエコトーンの役割は大きく、希少な淡水魚類、両生類やシャジクモ類、トリゲモ類が多く生息。昆虫類も豊富でギフチョウ、モートンイトトンボ、ムカシヤンマ等、通年様々な生き物が観察できる。



土地利用の変遷 おそらく江戸時代もしくはそれ以前から、稲作地として利用されていると思われる。

サイト周辺の環境 周辺は兵庫県の環境林（治山課管理）ではあるが放置林となっている。また周囲の棚田は、圃場整備が行われ生物多様性は減少している。

アピールポイント 比較的小さな棚田が複雑な地形を形成し、ため池との景観が美しい。
貴重種のハビタットとしての役割。
研究の場所提供。
環境学習の実施。
栽培中農薬不使用（ほぼ有機栽培）



生物多様性の価値

価値（1）公的機関等によって、生物多様性保全上の重要性が既に認められている場

【選定されている制度名】

①環境省重要里地里山（宝塚市西谷地区 No.28-10）

【選定理由や内容】

宝塚市北西部の丘陵地に位置し、湿原、ため池、棚田、里山林などモザイク状の土地利用形態が広がっており、多様な動植物の生息空間が成立している。ムササビ、カワセミ、カセトウチショウウオなど里地里山に特徴的な種が多く生息しているほか、特に、湧水湿原の貧栄養湿地群を形成している丸山湿原群や松尾湿原は、県や市の天然記念物に指定されており、サギソウ、トキソウ、ハッチョウトンボなど絶滅危惧種を含む貴重な生物種が生息・生育している。

【選定されている制度名】

②兵庫県レッドデータブック2020 Bランク（細尾 池沼植物群落 No.単436）

【選定理由や内容】

溜池を中心とした貴重な植物群落が形成されている
地主によってよく維持されている



写真の撮影年月：2022年6月9日

写真の説明：棚田畦畔に咲くノハナショウブ（株立ち）



写真の撮影年月：2021年6月9日

写真の説明：畦畔に咲くスズサイコ

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

旧型圃場の維持によって、ため池や素掘りの水路に里地特有の植生（水田生態系）が成立している。

【主な植生】

湿生植物、抽水植物、ラン類、菌従属栄養植物類、水田雑草

【確認された主な動植物】

里地里山の植物が350種以上確認されているほか、両生類、魚類、昆虫類など里地里山の動物相もみられる。確認された主な動植物は以下のとおり。

植物：シソバタツナミ、ヒナノシャクジョウ、ホンゴウソウ、キンラン、スズサイコ、クチナシグサ、ニッポンフラスコモ、イトトリゲモ、イトモ、ハタベカンガレイ、ヒロハトリゲモ、ミズオオバコ、イチョウウキゴケ、カズノゴケ、アリマグミ、ヤナギスブタ、オケラ、ノハナショウブ、クロモ、シャジクモ、アイナエ、カサキシャジクモ（イトシャジクモSp）

両生類：モリアオガエル、タゴガエル、アカハライモリ、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル

魚類：メダカ、ドジョウ

昆虫類：ミズカマキリ、シロヘリツチカメムシ、ヘイケボタル、ゲンジボタル、ギフチョウ、ウラナミアカシジミ、オオイトトンボ、モートンイトトンボ、オグマサナエ、タバサナエ、フタスジサナエ、ムカシヤンマ、ヨツボシトンボ



写真の撮影年月：2023年6月3日
写真の説明：産卵中のモリアオガエル



写真の撮影年月：2018年6月5日
写真の説明：素掘りの水路脇に飛ぶモートンイトトンボ³

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

湧水をともなう棚田周辺（有馬層群地帯）
棚田内と素掘りの水路、棚田を取り巻く畦畔

【確認された希少種】

環境省レッドリスト2020及び兵庫県レッドリスト掲載種として、植物約30種、両生類6種、魚類3種、昆虫類16種の生息・生育が確認されている。確認された主な希少種は以下のとおりである。

植物：シソバタツナミ、ヒナノシャクジョウ、ホンゴウソウ、キンラン、スズサイコ、クチナシグサ、ニッポンフラスコモ、イトトリゲモ、イトモ、ハタベカンガレイ、ヒロハトリゲモ、ミズオオバコ、イチョウウキゴケ、カズノゴケ、アリマグミ、ヤナギスブタ、オケラ、ノハナショウブ、クロモ、シャジクモ、アイナエ

両生類：モリアオガエル、タゴガエル、アカハライモリ、シュレーゲルアオガエル、トノサマガエル

魚類：メダカ、ドジョウ

昆虫類：ミズカマキリ、シロヘリツチカメムシ、ヘイケボタル、ゲンジボタル、ギフチョウ、ウラナミアカシジミ、オオイトトンボ、モートンイトトンボ、オグマサナエ、タバサナエ、フタスジサナエ、ムカシヤンマ、ヨツボシトンボ



写真の撮影年月：2022年8月15日

写真の説明：ホンゴウソウ



写真の撮影年月：2021年4月25日

写真の説明：ムラサキサギゴケの蜜を吸うギフチョウ 4

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>【管理計画の内容】</p> <p>1. 管理目的</p> <p>米の生産、環境学習の場提供、生物多様性の保全である。米の生産が主な目的ではなく、生物多様性の保全にも同等の重みを置いている。</p> <p>2. 管理方針</p> <p>伝統的農法による農地の維持</p> <p>3. 管理措置</p> <ul style="list-style-type: none"> 水路の泥上げ、水路脇の樹木の伐採（日当たりの確保） 栽培中の農薬の不使用、化学肥料の不使用、 田んぼの除草（5、6月） ため池の水抜き（3～4年に一度） 周辺畔地の定期的な草刈り（年2回）と火入れ（1、2月） <p>4. 管理期間</p> <p>通年（稲作計画に準ずる）</p> <p>5. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> 稲作計画に準じてこれらの措置を実施し、ため池や水路に依存する里地特有の植生や動植物の保全に貢献する。 従来から措置を実施しており、この4～5年で観察できる種数の増加を感じている。 	<p>【モニタリング対象】</p> <p>棚田と周辺の畦畔、ため池や素掘りの水路、日当たりにおける（希少種を含む）動植物</p> <p>【モニタリング場所】</p> <p>兵庫県宝塚市玉瀬細尾</p> <p>【モニタリング手法】</p> <p>ルートセンサス、環境学習時 日常的な観察、有識者による調査</p> <p>【実施時期及び頻度】</p> <p>観察はほぼ毎日 有識者による調査はRDB見直し時期（県・市それぞれ）</p> <p>【実施体制】</p> <p>地主の農作業時に逐次おこなう 研究者の来訪時（神戸大学 人と自然の博物館）</p>